



奈良ゆかり探訪

第3回

～知ればその国の人に話したくなる～

奈良は東アジアから伝わった文化遺産にまつわるゆかりや、世界の国・地域との意外と知られていないゆかりがたくさんあります。普段見慣れた奈良の風景には、おどろくようなエピソードがいっぱい。

今月は、奈良とインドのゆかりを紹介します。

つばさか 壺阪寺



▲インド人石工の手により作成された石像の数々

奈良×インド



せきちようじぎょう

ハンセン病患者救済事業への支援や雇用拡大のための石彫事業、教育支援など幅広い分野でインドでの国際協力に尽力している壺阪寺。全長20mの大観音石像や日本では珍しい大涅槃石像をはじめとする石像、アジャンタ石窟寺院をモデルとする大石堂は慈善事業の一環として多くのインド人石工の手により作成されたものです。

デリー国立動物園

デリー国立動物園では、1960年に日本から送られた日本鹿の子孫を見ることができます。送られた鹿が奈良公園の鹿だったかどうかはわかりませんが、説明文の一部に「ニホンジカの群れは奈良で保護され、奈良を訪れる多くの人を楽しませています。」との記載があり、遠く離れたインドでも鹿と奈良の深い関係を感じることができます。

☎ 県国際観光課 ☎0742-27-8553 FAX 0742-23-0620



▲奈良公園の鹿と外国人観光客

ならの 第16回 生きものたち



東洋では「蝙蝠」の「蝠」と「福」の中国語の発音が同じであることから、縁起のよい動物とされているわ。日本でも昔はめでたい動物と親しまれていたのよ。でも、西洋から吸血鬼のイメージが広がってからは、どちらかという好まれない動物になってしまったわ。実際に血をエサにするコウモリは中南米に3種いるだけで、日本にはいないのよ。

Q & A

おしえて コマドリ先生!

Q: どんな動物なの?

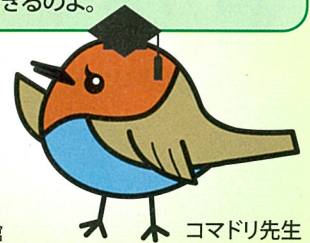
A: 地球上でコウモリの仲間は、約1000種知られていて哺乳類全体の4分の1近くも占めているの。奈良県内では14種の生息が確認されていて、絶滅寸前種として3種、絶滅危惧種として6種、希少種としては

コウモリ

【哺乳類 コウモリ目(翼手目)】



アブラコウモリは、ほかのコウモリにくらべ、温度や湿度への適応性があるから、市街地に住むことができるのよ。



コマドリ先生

奈良県レッドリストに唯一選定されていないアブラコウモリ
写真提供:こうもり博物館

4種の計13種の森林性のコウモリが奈良県レッドリストに選定されているわ。夜行性で、昼間は洞窟や大木の樹洞などで休息し、市街地にはいない種類よ。少なくなった理由は、樹洞ができるような巨木が減っているからだと言われているわ。

Q: 市街地で、夕方になると飛んでいるコウモリがいるよ?

A: アブラコウモリといって、最近市街地で増えてきているわ。夜間に、超音波による反響定位(エコーロケーション)で飛び回り、カ、ユスリカ、ヨコバイ、ウンカなどの小さな昆虫をたくさん食べて、それらの大発生を防いでくれているの。その一方で、昼間は家屋に潜んでいて糞尿による汚染や、明け方エサ取りから帰ってくる時の音が問題になっているわ。

☎ 県自然環境課 ☎0742-27-8757 FAX 0742-22-7060

奈良の生きもの情報調査

検索

こうもり博物館

検索